
理想と憧れ

藍図乃々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

理想と憧れ

【Nコード】

N3036B

【作者名】

藍図乃々

【あらすじ】

人は失恋した時、どうするのか…。もし幸せだと思っていたことが違ったら？自分の気持ちに嘘について幸せなフリをするのか…。自分に正直に、愛を自ら壊すのか……

第1話（出会い）

柚木リサ。失恋直後で傷心気味。：彼との出会いはお互いの一目惚れだった。

相手は同じ年の小峰裕也。リサがこんなに片思いしたのは初めてだった。今までも恋はしてきた。恋に年令は関係ないのごとく年上もいれば年下もいた。だが共通点があった。

それは：優しいということ。それは裕也にも当てはまることだった。優しいとは良いことだが悪い方に転がることもある。裕也の第一印象は最悪だった。彼はもともとリサの友達の華と仲が良かった。付き合っていると噂されるくらいだった。華はノリが良くて裕也にもからい半分で話し掛けることが多かった。そのせいなのか分からないうが裕也の態度はそっけなかった。そのときの裕也の態度はリサには理解できずノリ悪い人とは思ってなかった。進展があったのはそれからしばらく経ってからだった。裕也がメールしたいと華を通して言われた。リサはあまり良い気はしなかったが断る理由もなかったのでメールすることになった。というか華に頼まれた以上断れなかった…。

何度かメールをやりとりするたびに裕也の事が気になりだしていた。携帯がなるたび胸が高鳴りうれしくなった。だんだんメールの回数が増え、毎日するようになった。リサは幸せだった、それと同時に片思いしている自分に気付いた。

そして日に日に裕也への気持ちが増していった。それから二人は付き合うことになった。リサから告白した。リサは緊張しながらも勇気を振り絞った。満月の夜だった。そんなリサを裕也は暖かく受けとめてくれた。

裕也は優しすぎるくらいリサを大事にしてくれた。

リサは本当に幸せだと感じた。

裕也の悪いところなんて見つからなかった。

この幸せが終わってしまわないかと不安になることもあるくらいだった。幸せはしばらくリサを見捨てなかった。

あの日が来るまでは…。リサの中にはドコか冷めた自分がいて、ロマンチックな事が好きじゃなかった。

いつも一緒にいるから行事だからといって特別な事は必要ないと思っていた。二人の記念日なら特別なことだが。だが裕也はそれが大切な事だったらしい。その事で喧嘩になった。彼はそれまでずっと我慢してきたらしい。いままでの不満を一気に言われた。正直なぜそのときに言ってくれなかったのか…。ショックだった。リサは自分が彼を追い込んでしまったと思った。

だから謝って仲直りしたつもりだった…。

それから彼は何もなかったかのように普通に接してくれた。

…だがリサの中で何かが崩れ始めていた。

裕也が普通に接してくれていたのは仲直りしてから少しの間だけだった。

しばらくたつと裕也はリサの行動を細かく気にするようになった。束縛というのだろう。今まで優しく包み込むような裕也の眼差しさえ監視のようでリサは少しずつ避けるようになった。裕也にはそれが面白くなかったのだろう。

ある日、裕也から電話で、俺のことホントに好き？と聞かれた。リサはすぐには応えられなかった。正直なところ、今の裕也は昔の裕也とは違う気がしていた。

そしてリサが好きだったのは昔の裕也のほうだ。リサはうそはつきたくなかったのをそれを伝えた。そして裕也は

「俺の何処が変わった？前に戻るように努力するよ」

そう言ってくれた。リサは束縛が嫌いだったのでそこを直してほしいといった。裕也は了解してくれた。

リサは改めて裕也は優しいと思った。…だがなぜか前のように愛しいとは思わなかった。リサは自分でも気付いていた、裕也への気持ちがだんだんなくなっている事に…。

だがわざと気付かないフリをしていた。裕也に片思いしている自分に気付いた時、これが本当の恋だと信じていたから。

今の自分の気持ちを認めてしまったら本当の恋ではないと言い聞かされてるようで…。

裕也の束縛が弱まったのは少しの間だけだった。

結局、人は簡単に変わるものじゃないと学んだ。

そしてこれ以上、自分のきもちを無視するのをやめることにした。裕也との関係を断つということ。

いつ言おうか悩んでいるとき裕也から電話がきた。それまでメールしてたので驚いた。内容はリサの裕也に対する態度がそっけないというもの。リサは素直に謝った。すると裕也は本当にわかってるのか？と聞いてきた。多分、リサのことが信じられないのだろう。その時リサの中で踏ん切りがついた、今が言うべきときだと…そして別れてほしいと言った。電話越しだったが裕也は確実に動揺していた。しばらく沈黙が続いていた。

第2話…疑問…

長い沈黙……リサは裕也の言葉を待った。

そして裕也の最初の言葉はなんで？

だった。彼はうまく行っていると思っていたのか…？

リサは不思議だった。

裕也の態度が驚きの余り動揺しすぎていてリサが何の前触れもなく突然、別れを切り出したみたいな様子なのだ。

リサは考え込んでしまつて返事をしなかった。

すると裕也は怒り泣きそうな声で

なんでだよっ！意味分かんないだろ。

と怒鳴っている。リサは冷静に好きじゃ無くなったからと答えた。

それが本心なのかはリサ自身も分からなかった。

裕也の声は震えていた……なんだよ、それ……。お前、ずるいな。いっつも俺が追っかけてて、いらなくなったらポイ捨てか？

始まった…俺が俺が、って自分が悲劇のヒーローとでも思っているのか…。

裕也の口は止まらなかった

お前、ひどい女だな。

リサが唯一、聞き

流せず聞いてしまった最後の一言だった…。

我慢の限界だった、確かにリサが悪い所も合った、しかしすべてリサが悪いわけではないはずだ。

それまで黙っていたリサだったがようやく口を開いた。そして発した言葉は……

さよなら。あたしがひどい女ならあんたは最低な男だよ。

と言って電話を切ったリサはしばらく放心状態だった…。

頭が混乱して動けなかった。なぜ混乱していたのかわからない。

でも混乱する必要はないはずだ。

言う事に気付いた。

だがもう連絡する気にもなれないのでほっとく事にした。自分には別れたと言いついて聞かせて。

リサが最後に言った言葉：いや悪口だろう。あれは反省した。

多分自分を守るために相手を傷つけたに違いない。それこそ最低だろう。リサは自分の弱さに改めて気付かされた。

別れた後とは、本当に不思議だ。いい思い出や相手の良い所ばかり頭に浮かぶ：まるで後悔させるかのよう。。

リサも自分があんなに好きだった事、裕也の態度に左右されてた日々、そんな事しか浮かんでこない。

リサは別れた後悔など絶対しないと心に決めた。というか言い聞かせた。

でも孤独というか何とも言えない不安が襲ってくる…。裕也と付き合う前に戻りたい、と何度も思った。

しかしそれは無理なことなのだ。無理だとわかっていても友達に戻りたいと思ってしまう。でもそこでリサの気持ちを留めたのが、

裕也の最後の一言だった。彼もまた弱い人なのだろう。リサも同じだが、なぜ好きだった人にそんな言葉をいえるのか…？

やはり自分が大切だからだろうか？

リサは自分がわからなくなっていた。

なにをすべきかもわからなかった。

けどただ気付かされた事は自分の心が狭いと。

もっと心が広い人にならなきゃいけないと。

リサにとって裕也は理想の人だと思った…

理想とは何なのだろう？

理想はただの理想で終わらせるべきなのだろう。

憧れも理想と似ている……リサは前に憧れていた先輩と付き合ったことがあった。だが憧れとは恐いものだ……リサはその先輩を見ていたのではなかった。

自分の中で作り上げたその人に恋をしていた。

その人に憧れてはいたが恋はしてなかったのだろう。

憧れと恋愛はつながるものなのだろうか？

少なくともリサの中ではつながらなかった。

リサは憧れで恋いはしないと学んだはずだったが結局同じようなことを繰り返してしまっている……リサは自分を変えるしか良い恋はできないと思った。しかしどうすれば変われるのかわからなかった……

本当の恋はできるのだろうか？

そもそも本当の恋なんてあるのか？……

……

良い恋とは何なのか？

自分にとって幸せとは……？

答えの出ない

疑問が次々と心に刺さる……

それは時間が解決してくれるものなのか……？

答えが出ないのなら、時間が解決してくれると願いた

い……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3036b/>

理想と憧れ

2010年10月21日20時50分発行